話題　其の２６：あいさつ

“マルハバ　キーフ　ハーレック？”　こんにちは、お元気ですか？
この言葉を一日に何度使うだろうか？　それほどアラブの人達はあいさつを大切にしています。

私の１日の始まりは、駐車場から出た直後に同じアパートの１階に雇われている、フィリピン人メイドさんに“マガンダン　ウマガ　ポ。クムスター　カ？”（タガログ語でおはようございます。お元気ですか？）と窓越しのあいさつ。

次は、アパート管理人兼雑用係のエジプト人のおじさんに車内から一声かける。彼は時々投げキッスをしてきます。５本の指先を尖らせた唇に突き刺すように当て、唇から話すと同時に手のひらを花が開くように広げるのです。不気味ですが、その仕草や笑顔の明るさに免じて勘弁（？）してやっています。また、時折１階に住む６歳の男の子が、スクールバスを待ちながら、力強く手を振ってくれたりします。彼等に見守られての出勤風景が毎朝の楽しみになっています。

家を出て間もなく、イスラエル大使館の脇を通ります。ここは２４時間ヨルダン警察の警官２名がパトカーを駐車させて、交代で警備にあたっています。彼等もまた笑顔であいさつを欠かしません。

職場に着くとあいさつ＋握手です。普段は駐車スペース確保のためにも、みんなより早めに職場に着くようにしていますが、たまたまみんなの出勤時間にぶつかると、３階の自分の部屋に着くまで時間がかかってしまいます。

声かけあいさつ、握手、握手したままお互いの右頬、左頬を合わせて“チュッ　チュッ”と唇を尖らせて音を出す。あいさつの方法も親しさによって異なるようです。

この風景は、悪く考えると、親しい人とは“チュッ　チュッ”。あまり親しくなかったり、良く思っていない相手には握手だけ、と使い分けていて、その差が露骨にさえ思えるときがあります。

私も会うと必ず“チュッ　チュッあいさつ”をする人が数人居ます。と言うよりも握手の時に引っ張られてきっかけが出来て、その後はやって当たり前になってしまいました。ヒゲ面をごしごし当てられて決して気持ちのいいものではないけど癖になりそうな今日この頃です。

話題　其の２７：駕籠に乗る人、担ぐ人、そのまた草鞋（わらじ）を造る人

この言葉に出会ったのはフィリピンに住んで居た頃でした。
人口１０００万人を越える首都圏マニラ、近代的な高層マンションと４００万人とも言われるスクウォッター（不法居住者）が暮らすスラムとが混在する都市です。

私が勤務していたフィリピン技術教育開発局の脇には国営鉄道が走っていて、線路沿いには僅かな木材やダンボール、それにトタン屋根の粗末な家屋が列車に触れんばかりに軒を連ねていました。
時折、交通渋滞を逃れて線路沿いを歩きました。列車の乗客を目当てに並ぶ野菜や焼き肉などの小さな露天、線路の延長線上にそびえ立つ高層マンション。都市中心部のマカティ地区は、近代化されたモダンな建物やブティク等途上国という印象は薄く、良くも悪くも開発の一局集中そのものです。

こんな派手な人々の暮らしの裏で、他の役割（労働）を担う人々の営みを見た感じがしました。

さてここヨルダンはどうでしょうか？　フィリピンのようなスラムは見あたりません。
様子を垣間見た３～４カ所のパレスチナ難民キャンプでさえ不衛生には見えませんでした。
それは、湿気の多い東南アジアと乾燥した気候の差も影響しているのでしょう。一軒一軒のお宅にお邪魔して、鍋釜の中を覗いてはじめて貧しさが解るのかもしれません。

ここで貧しさを感じるのは外国人出稼ぎ労働者の存在です。
先ほど紹介したフィリピンメイドさんは月給１５０ドルで年中無休、しかも契約期間である２年間は外出もままならない状況です。同じく、我が家の家主さんが契約しているスリランカ人のメイドさん２人に至っては、月給１００ドルで休暇無し、外出も出来ない状態です。さらにもう一人、このアパートの管理人兼雑用係のエジプト人も月給１００ドル程度です。ただ、彼の場合は休暇なしでも時折近所のモスクに礼拝に行ってますから、メイドさん達に比べて自由があります。

その他、道路の清掃、ゴミ収集、建築現場、病院の看護婦、農場などヨルダン人が好まないと言われるサービス業や重労働には多くの外国人が出稼ぎで従事しています。

フィリピンの現状から見れば、出稼ぎも貴重な就労機会なのですが、雇用期間中は雇用主にパスポートを握られ、掃除に洗濯、アイロンかけ、食事の準備や後かたづけにベビーシッターまでもやらされて・・・・・。当然のようにまかり通っているこの人権無視の雇用形態を目の当たりにして、“駕籠に乗る人、担ぐ人、そのまた草鞋を造る人”この言葉を思い出したのでした。

****

執筆及び編集：久米　篤憲